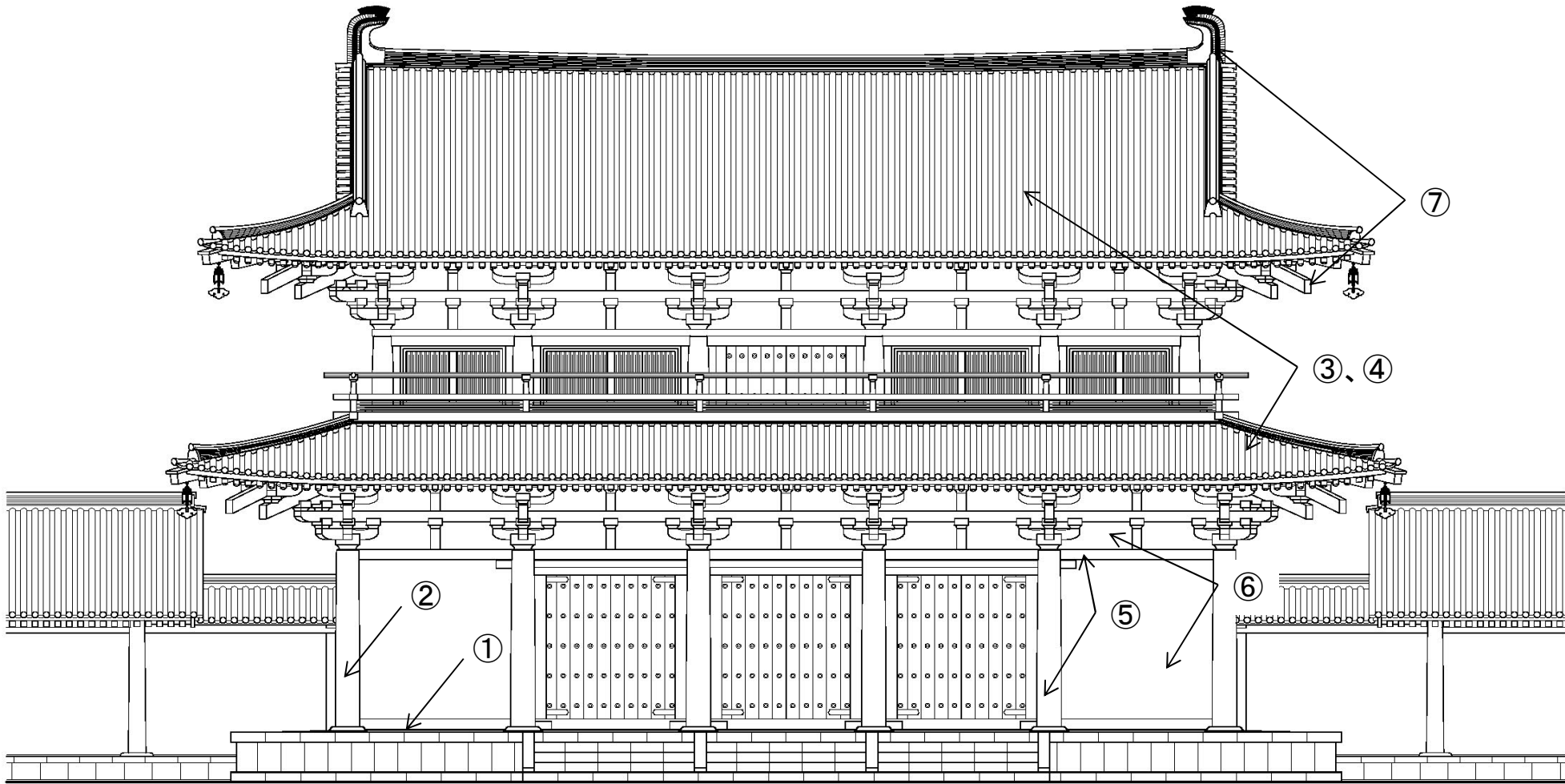




復原整備案の実施における仕様は、復原原案の仕様を再現しながらも、部分的には見学や現在の施工能力などを考慮した仕様を採用する。その基準は、大極殿の復原実施仕様に倣うものとする。一部の例を以下に挙げる。仕様の内容が細かいので、すべて委員会で協議するのではなく、専門の委員に諮りご助言いただいたものを実施設計としていきたい。

部位		復原原案仕様	復原整備実施仕様 (網掛けは大極殿にないか再検討を要するもの)	仕様選択の理由
基礎	上面仕上げ	叩き。	叩きおよび自然色舗装。	見学者が頻繁に歩く部分は、自然色舗装。
木部	仕上げ	ヤリガンナ。部位によってはチョウナ(小屋材など)。見え隠れには割肌もあり。	ヤリガンナ。部位によってはチョウナ。見え隠れは台匏仕上げ程度。	加工そのものは機械加工とするため。
屋根瓦	色	黒色。	黒色。	着色の工法は、要検討。
	表面仕上げ	縄目、布目。	縄目、布目を再現する。	瓦製作の過程を理解していることを表現するため。
塗装	溶剤	膠。あるいは荏油など。	膠と現代的な溶剤を混用する。	見学者が頻繁にさわる可能性のある部分については、顔料がつかないような溶剤を使用。
壁	仕上げ	白土の可能性が高い。漆喰もあり得る。	漆喰。	白土は施工性が悪いため。
金具	仕上げ	水銀鍍金仕上げ。	水銀鍍金仕上げと電気メッキ、漆箔の混用。	大きいものは、水銀処理ができないため、漆箔等を用いる。